

1. 漏えいタンクの確認

- 同エリア内のNo. 5（H4-I-5）タンク近傍の底部で水の広がりがあることから、当該タンクの水位を確認した結果、タンク上部から3m40cm程度まで低下していることを確認。
- 近接するタンクの水位は上部から50cm程度であることから、現時点で約3m水位が低下していることを確認。さらに、周辺タンクの水位について調査中。
なお、約3mの水位低下分の水量は、約300m³。
- 漏えいしたと思われる水については、堰内の水は一部回収を実施しているが、ドレン弁を通して堰外へ出ていると思われることから本日（8/20）周辺の土壌の回収を行うとともに広がり範囲について引き続き調査予定。

2. 貯留水の漏えい範囲拡大防止作業

◆【堰外への漏えい拡大防止、堰内の漏えい範囲抑制】

- 当該エリア堰のドレン弁については、全て閉止（8/19 実施済み）。
- 堰内エリア拡大抑制のために、漏えい水の顕著な箇所に吸水マットを設置（8/19 実施済み）。
- 堰内の漏えい水を、仮設排水ポンプにて仮設タンクに排水を行い、可能な範囲で排水を一旦完了（8/20 午前0時時点で約4 t回収）。なお、線量の高いNo.5タンク周辺など、一部、水は残留している。
- 約3時間毎に現場状況を確認中（なお、その後も漏えいは継続）。
- 今後、準備が整い次第、仮設排水ポンプ→仮設ポンプ→水中ポンプ→Bグループタンク群（H4内で余裕のある群）への送水に切替予定。最終的に高圧洗浄により、床面を除染する。

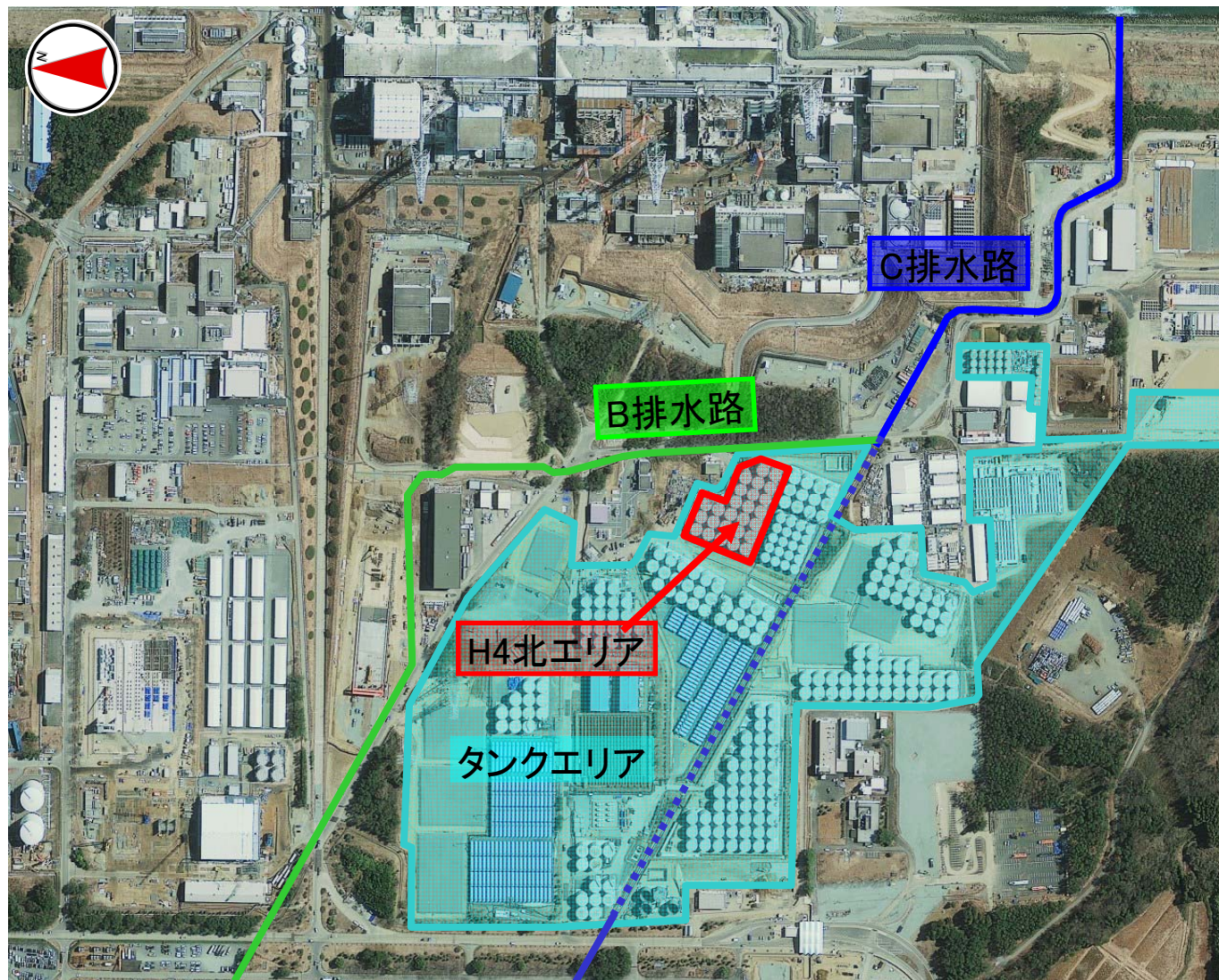
◆【堰外における漏えい拡大抑制】

- 堰外の汚染土壌の除去を実施（8/20 6:30～作業開始）。
- 排水路への汚染漏えい水混入を防止するため、今回の漏えい箇所近傍で、土堰堤が構築されていない（大型土嚢式）箇所について、上記汚染土壌の除去を実施した後に土嚢背面盛土を構築する。

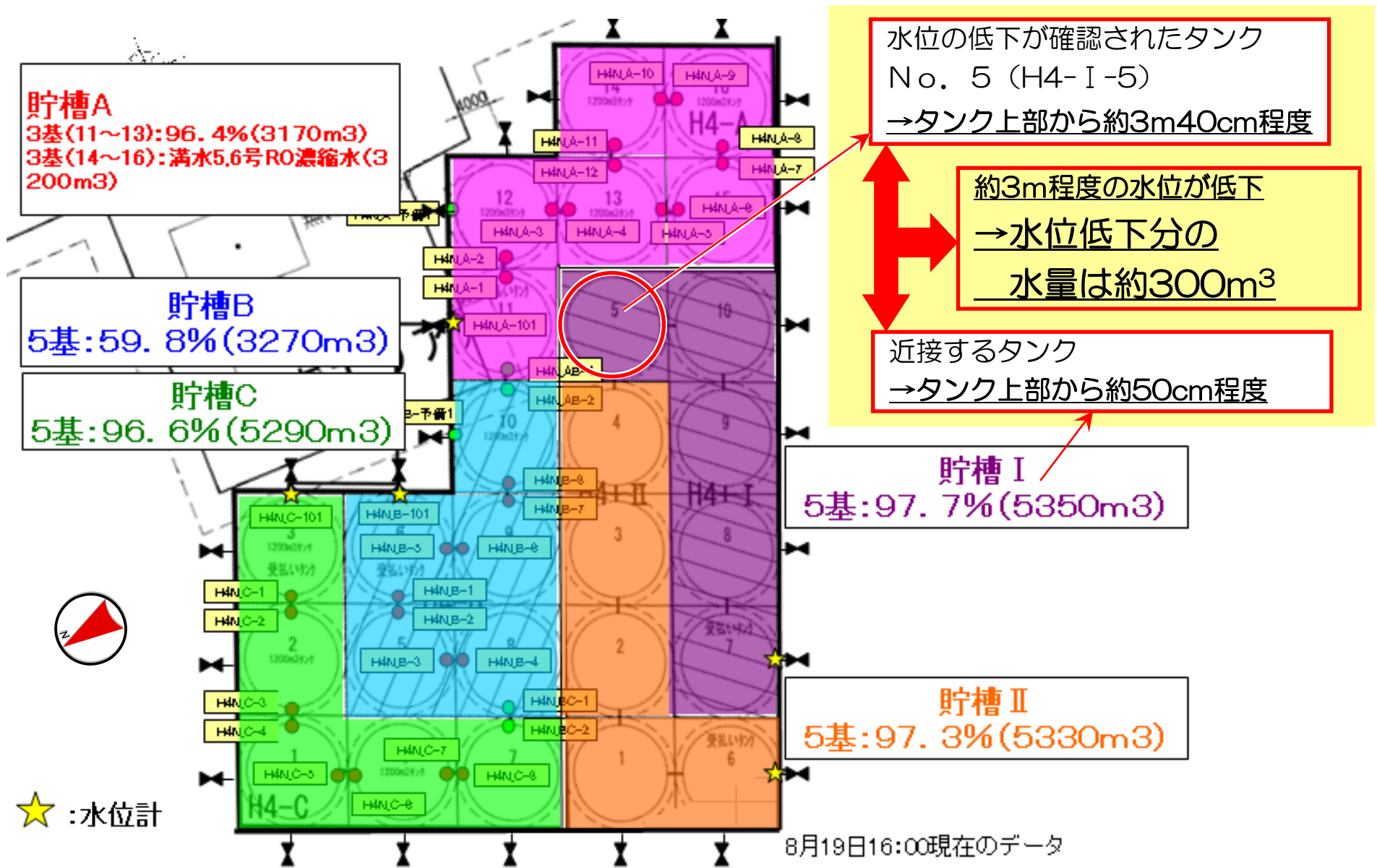
3. 漏えいタンク内貯留水の移送作業

- 漏えいタンクを特定した後、上記2. で述べたとおり、仮設ポンプ・タンク・配管を用いて、漏えいタンクの上部より水抜きし、同H4エリア内Bグループタンクに送水する。

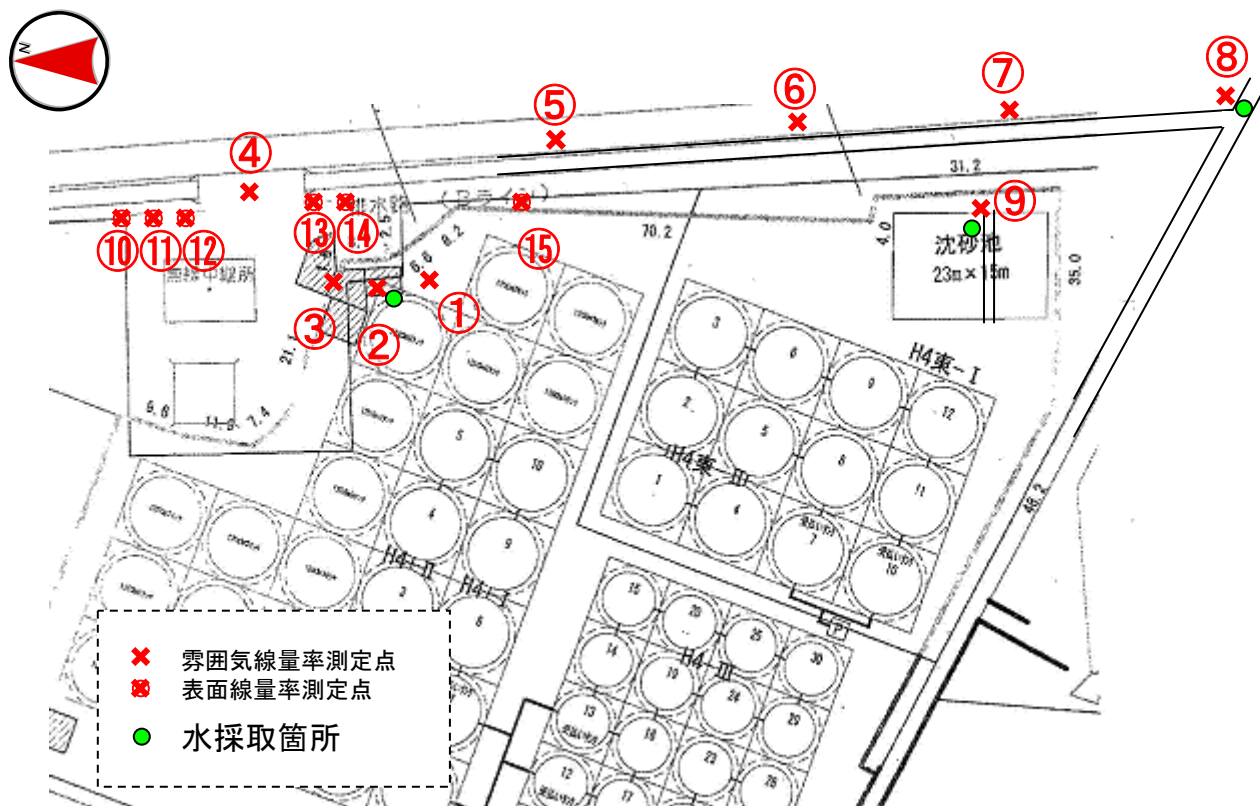
タンクエリアと排水路の位置



タンクの設置状況と各タンクの水位（%で表示）



ROタンクからの漏えいに伴うサーベイ結果



■線量率測定結果

測定日: 平成25年8月19日
 単位: [mSv/h]

測定点	線量率	
	$\gamma + \beta$ 線	γ 線
①	>100	1.5
②	5.5	0.1
③	0.08	0.05
④	0.04	0.04
⑤	0.06	0.06
⑥	0.06	0.06
⑦	0.045	0.045
⑧	0.06	0.06
⑨	0.015	0.15
⑩	90.0	0.36
⑪	96.0	0.45
⑫	90.0	0.35
⑬	0.35	0.07
⑭	0.12	0.11
⑮	0.024	0.015

■試料水の分析結果

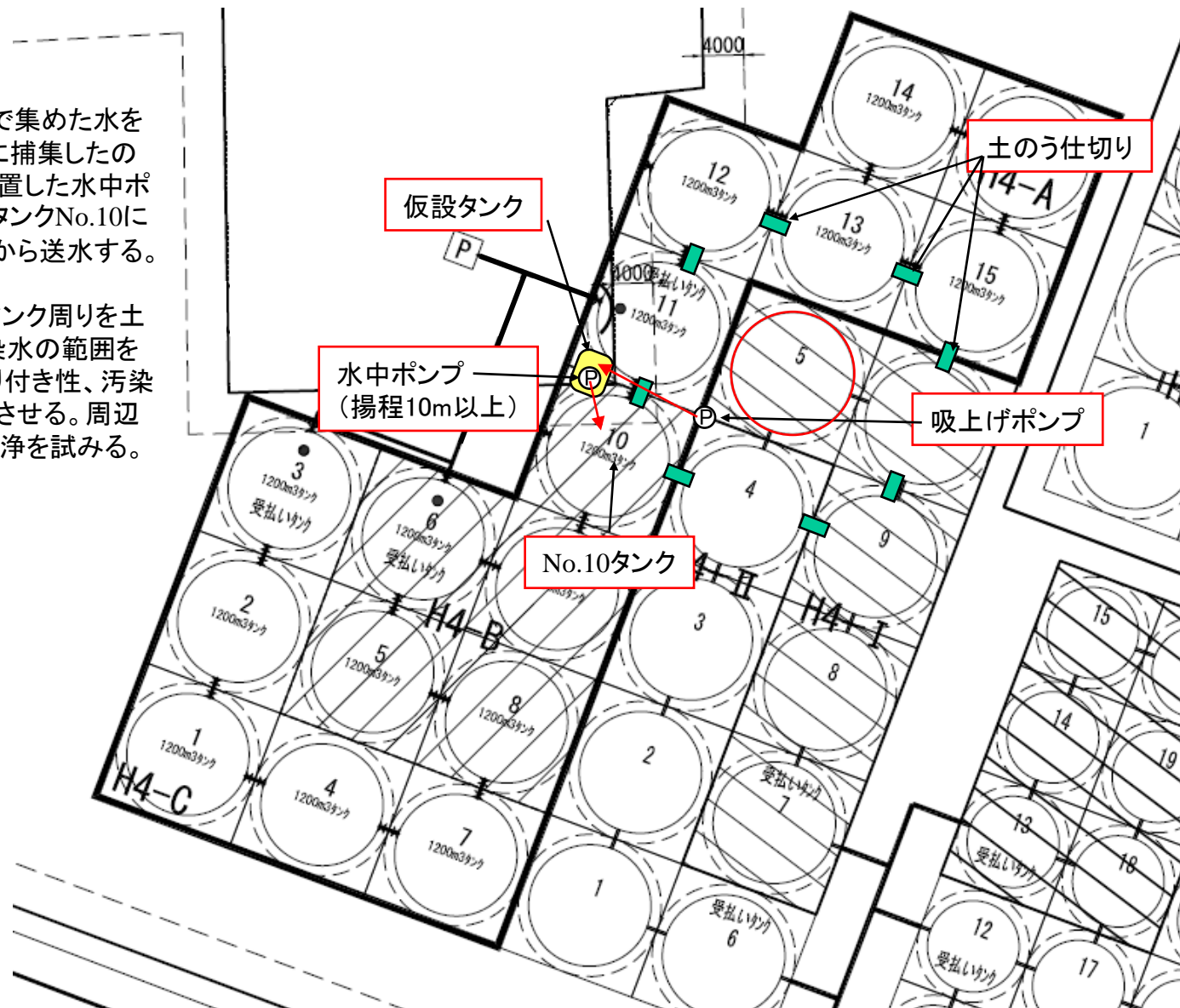
試料採取日: 平成25年8月19日

測定点	γ 核種 (Bq/cm ³)					全 β (Bq/cm ³)	塩素 (ppm)
	Cs-134	Cs-137	Co-60	Mn-54	Sb-125		
漏えい水	4.6E+1	1.0E+2	1.2E+0	1.9E+0	7.1E+1	8.0E+4	5,200
沈砂池	<2.0E-2	<2.6E-2	<1.3E-2	-	-	4.1E+1	-
側溝	<1.9E-2	<2.7E-2	<1.4E-2	-	-	1.3E-1	-

堰内の漏えい水の回収について

吸い上げポンプで集めた水を一端仮設タンクに捕集したのち、タンク内に設置した水中ポンプでBブロックタンクNo.10に頂上マンホールから送水する。

漏えいしているタンク周りを土のうで囲み、汚染水の範囲を制限し、作業寄り付き性、汚染水回収性を向上させる。周辺は早期の床版洗浄を試みる。



土のうは床面にアクアブロック層敷きのうえ、隙間なく二段積みする